

天子の戯れ

本文の構成

1 古記録に、成王の冗談を周公がまともに取り上げ、幼い弟を諸侯にとりたてたという話がある。

2 弟が諸侯として適当なら周公はしかるべき時に進言すればよいし、不適当なら成王の冗談で君主を決めたことになる。

3 これでは、周公には聖人の資格がない。

本文の主旨 聖人と称された周公の行為を、論理的に批判する。

本文の解析 主旨 指示語 学習した句法

1 古之伝者有言成王以桐葉与小弱弟。 古い書物に次のような記録がある。 「成王は桐の葉を幼い弟に与えて、

戯れ曰、「以封汝。」周公入賀。王曰、「戯也。」周公曰、「冗談で、これでお前を諸侯にとりたてやろう。」と言った。周公が参内しお祝いを言った。王は「冗談だ。」と言った。

天子不可戯。乃封小弱弟於唐。吾意不然。 禁止 天子は冗談を言うてはなりません。」と言った。そこで幼い弟を唐の諸侯にとりたてた。私の考えでは正しくない。

8 王之弟当封耶、周公宜以時言於王。不待 王の弟が当然諸侯にとりたてられるべきなり。周公は適当なときに王に申し上げるのがよい。その冗談を待つて

其戯而賀以成之也。不封耶、周公乃成。 成王 其の戯れを祝ってこれを成就させることはない。当然諸侯にとりたてられるべきでないなら、周公はなんともあ

其不中之戯、以地以人、与小弱弟者、为之。 成王 其の不適当でない冗談を成就させ、土地と人民を、幼い弟に与えて、この主君としたことになる。

3 主其得為聖乎。 反語 主、其得、為、聖、乎。 周公は、いったいどうして聖人でありえるだろうか、いや聖人ではない。

書き下し文

1 古の伝ふる者言有り。 2 「成王桐葉を以て小弱弟に与へ、戯れて曰はく、『以て汝を封ぜん。』と。」

3 周公入りて賀す。 4 王曰はく、『戯れなり。』と。 5 周公曰はく、『天子戯るべからず。』と。

6 乃ち小弱弟を唐に封ず。』と。 7 吾が意然らず。 8 王の弟当に封ずべきか、周公宜しく時を以て王に言ふべし。

9 其の戯れを待ちて賀して以て之を成さざるなり。 10 当に封ずべからざるか、周公は乃ち其の不中の戯を成し、地を以て人を以て、小弱弟なる者に与へて、之が主と為す。

11 其れ聖たるを得んや。

出典 「文章軌範」謝枋得編(南宋)

七卷六十九編。官吏登用試験の教科書として模範とすべき散文を集めたもの。諸葛亮の「前出師表」と、陶淵明の「帰去來辞」以外は唐宋の古文。





過去の話を引用したのはどこまでかを読み取ること。3行目「吾意」は「わたくしの考えでは」と訳すので、ここからが作者の論だとわかる。

問四 再読文字「当」に着目。(▼1句法の確認P.3)当然「するべきだ」と訳すので、正解はア。「封ず」は王が臣下に領地を与え諸侯とすること。

問五 再読文字「宜」は「よろしくべし」と読む。(▼句法の確認)「以」は「Aを以て」と読み、Aが手段・根拠・対象であることを表す。「言」は「申し上げる」とあるので「言ふ」。古語の仮名遣いに注意する。

問六 「之」は成王の「戯」を指す。「これを成す」とは成王の冗談を実現すること。成王の幼い弟を本当に諸侯にとりたてて、唐に封じてしまったのである。

問七 ①「不中」は、あたらない↓まとはずれである↓適当ではない、と考える。工は「毒にあたる」と訓読できる。

「中」の読みと意味

名詞 なか ……中枢(物事を中心)、中略(中間を省略すること)

中古(上古と近古の中間の時代)使用してなかば古くなったもの

動詞 あツ(あてる)・あタル ……中毒・的中(ならったものにあたる)

② 「戯」は冗談・不適切な発言の意で、成王が幼い弟と行った、諸侯にとりたてるといふ遊びのこと。幼い弟にはまだ国土や領民を統治する力がなく、諸侯にとりたてるのは適当ではないので「不中之戯」と言い表した。

問八 線6は「いったいどうして聖人でありえるだろうか、いや聖人ではない」と訳す。作者の論を整理すると、次のようになる。

成王の弟が諸侯としてふさわしい場合

↓適当なときにそのことを申し上げるべき

(成王の冗談に乗じて諸侯としてとりたてるべきではない)

成王の弟が諸侯としてふさわしくない場合

↓適当でない人物を諸侯にとりたてた

(冗談で諸侯をとりたてるのは、さらにするべきではない)

どちらの場合も、周公は成王の摂政として不適切で、聖人ではあり得ない。

問九 周公の考えは、3行目「天子不レ可レ戯」、また成王の冗談を実現させたことからアが正解。また作者は、天子の誤りを訂正せず、誤りのまま実現させた周公を批判しているので、正解はエ。天子が誤ったら臣下が慎重に対処しこれを正すべきだと考えているのである。

周公も作者も冗談が必要とは考えていないのでイは不適。ウの選択肢は天子に対する批判だが、作者が批判するのは周公なので不適。周公も、災いの原因とは言っていないので、周公の考えとしても不適。

周公 ①ア 天子の言葉は重々しく、一度口にしたら取り消すことはできないものだ。イ 天子の冗談も、政治のために場合によっては必要とされることもある。ウ 国の災いは、必ず天子の軽はずみな言動から生じるものだ。天子の言葉であっても誤りであれば、臣下は無批判に受け入れてはならない。

作者 ①工

重要漢字の確認 再読文字の別の読み

①将 卒 二 万 一 渡 河 卒二万を将めて河を渡った。二万人の兵卒を率いて河を渡った。

ひき中ル(率いる) 「率」と同じ。ぬルと読んでも同じ意味になる。もつテ(以と同じ)、はタ(そもそも・それとも)とも読む。

②民 勞。未レ可。且 待レ之。

民(たみ)勞(らう)る。未(な)だ可(か)ならず。且(かつ)之(これ)を待(まち)て。人民は疲れている。まだその時期ではない。ひとまずこれを見て。

しばらく(ひとまず) かツ(そのうえ・くさへ)とも読む。

③宜 乎。百 姓 之 謂 我 愛 一 也。

宜(な)なるかな。百(ひゃく)姓(せい)の我(われ)を愛(あい)しむと謂(い)へるや。もつともなことだ。国民が私のことを物惜しみすると言ったのは。

むベナリ(当然である)・もつともである(よろシ)うまくゆく・適切である(とも)読む。